

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】かるがも郷

事業所番号	O170100846		
法人名	(有)ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも (郷ユニット)		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	令和元 年10月7日	評価結果市町村受理日	令和2 年 1 月 27 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100846-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和1年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、安心と尊厳のある生活を保障され、個人が主体的な決定を行えるよう様々な分野の活動、または機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に個人の状況に応じ提供されるよう援助している。又、家庭的な雰囲気の中で普通の暮らしを行う事によって生活の楽しさや、自身を持って感じて頂けるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は札幌市北区新川の新川通りに近い閑静な住宅地に位置し、道央道新川ICから車で5分と交通の利便性がよく、隣接してスーパーや「かるがも公園」、保育園、小学校、中学校があり生活環境に恵まれている。利用者は「かるがも公園」を散歩したり、2階建て2ユニットのグループホーム1・2階の窓から公園の桜を鑑賞するなどして、四季の移り変わりを感じることができる。また、子供の遊ぶ姿や楽しそうに遊ぶ声などが聞こえ、利用者の心を和ませている。利用者は町内会の祭りや清掃に参加し、事業所の「かるがも祭り」には、町内会に案内を配布し、利用者家族、町内会ボランティアの協力のもと、祭りには出店があったり、地域住民、家族、学童保育の児童などが参加して交流するなど、賑やかな祭りとなっている。職員は理念を理解し、事業所の名前のオークは「檜の木の前で支えあう人々の信頼と笑顔を分かち合い、そして生きていくことの素晴らしさ・・・」を指し、おおらかに移ろう四季の中に安らぎと寛ぎの時間がゆっくり流れながらリビングは和気あいあいといつも和やかな雰囲気ですいつも利用者に寄り添いながら、和やかでアットホームな空間になる様心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の送り時に読み上げ確認をしている。廊下の壁にも掛けてあり常に目にすることが出来実践できるような心掛けている。	事業所理念を各ユニットに掲示し、申し送り時には理念を読み上げ、理解を深めて職員は理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会と連携を取りながら、清掃活動・祭り・学童保育の子供達と交流を計ったり地域のボランティアの方も来られている。	町内会に加入し、町内の掃除活動や祭りに参加したり、事業所の庭を町内に貸し出し、利用者と共に畑の作物を収穫して楽しんでいる。秋の「かるがも祭り」では、地域住民、地域の子供たち、利用者家族と楽しいひと時を過ごし、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症110番の家に登録をし、運営推進会議などにて理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現在の取り組み状況や実態について報告し話し合い意見などを頂いている。	運営推進会議は年6回開催し、地域包括支援センター職員、家族、町内会役員などが出席し、運営状況報告や意見交換などを行い、消防署から災害訓練の助言や反省点の報告を得ながらサービス向上を目指している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から施設運営に係る担当者や生活保護担当者等、市町村職員と情報交換をしながら協力関係を得ている。	運営推進会議では参加の地域包括支援センター担当者にホームの実情を丁寧に説明しホームへの理解を深めている。市内グループホーム管理者会議や連絡会に出席し、市からの情報やホーム同士の情報の共有等に努めており、協力、連携を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議やミーティングなどで定期的に認知症ケアについて勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備して職員研修を行い、身体拘束の弊害を理解するよう心がけている。日中は施錠せず、利用者一人ひとりを全職員が見守る体制としている。夜間は、安全確保のため、玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などにて再三の確認と都度マニュアルを手渡し、名前の呼び方にも注意を払っている。又入浴時や着替えの時など全身確認を徹底している。		

オークヴィレッジ かるがも（郷ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を活用している方がおり、それぞれのスタッフが対応することにより学ぶ機会や活用について支援出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に不明な点等の確認を行いながら、わかりやすい説明と理解していただけるよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族来訪時に意見を聞いている。又、ご家族の意見などは記録に残し不安や苦情等についても職員間で話し合い対応している。	「かるがもだより」の広報誌と利用者の日頃の様子やイベント行事に参加したときの写真を送って利用者の様子などを知らせ、家族から喜ばれている。また、来訪時には、利用者の情報を伝えながら要望、意見等を把握し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を開催し直接意見を聴取し運営に役立つか等を検討し反映するように努めている。	職員の意見や提案は、全体会議を月1回行い、カンファレンスを含めた各ユニット会議で把握している。改善事項があれば提案を受け運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や実務者研修修了者等資格取得に応じて昇給する仕組みや勤続年数などに応じて昇給する仕組みを整備し、介護職員処遇改善加算、介護職員などの特定処遇改善加算を算定し、職員への支給を毎月行っています。（特定処遇改善加算金は令和2年1月より支給開始）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が自ら能力を再断言に発揮しやる気と働き甲斐を持って仕事に従事できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区で定期的に行われる連絡会に参加し横のつながりを大事にしている。その際、管理者同士の意見交換や情報交換を行い質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活環境や性格など良く理解したうえで、本人並びに家族の意向などを良く聞き不安が無いように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見・要望や不安な事柄など傾聴し、施設がわの考え方をしっかり説明させて頂き安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階でわかる事・わからない事等を理解・把握しその人らしく暮らせる支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生きがいを見出しながら、日常のお手伝いなどにて生活意欲につなげる様、食器洗い、食器拭き、お米研ぎ等参加して頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られるご家族は直接お話しできますが、来所されないご家族にも毎月新聞をお送りし本人の状況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にされてきた馴染みの方がいつでも気軽に来て頂けるように努めている。	利用者との会話から昔のことや馴染みの場所等を把握し、家族の協力も得ながらドライブや美容院への送迎支援を行っている。友人、知人の来訪時には、落ち着いてゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合う方同志過ごせる場面を作る等関係性をうまく取り持てるよう支援している。		

オークヴィレッジ かるがも（郷ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もできる事があれば相談・支援協力の意思をご家族にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、言動や表情・行動などから本人の思いを読み取れる様努めている。	日々の関わりの中から、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報収集や職員間の相談などでできるだけ利用者の希望に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活内容やその他のサービス機関の情報収集等を行い日々変化してゆく状況の中・関わりの中で新しい以降の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活記録として業務日誌や個人記録を作成しており、さらには詳細にわたる細かい情報は申し送りの中で説明するなど毎日の体調や状況等日々把握し、過ごしやすい環境を提供できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の変化や家族の意見等、ひびの情報を共有し今後どのようにしたら良いのかを現状に添って計画作成を行っている。	家族や利用者の意見や要望を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、3ヶ月毎で見直し介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、ご家族、医療機関等の意見交換しながら職員間で意見を出し合い作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見要望に対し、常にその状況に応じた柔軟な対応をし続けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のゴミ拾いに参加したり、学童保育の子供たちと交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、医師往診・看護師往診・歯科往診を行っているが、入居前からかかりつけ病院に受診されている方やご家族の希望に応じて受診できる。	協力医療機関から2週間に1回、医師の往診があり、週1回看護師が健康管理を行っている。24時間体制の医療支援を行っている。入居前からかかりつけ医受診は家族の希望に応じて受診できる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師が週1回訪問し、日常の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人に関する情報を医療機関に提供し家族と共に情報交換しながら回復状況等把握し退院後の支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃から現状を伝える様努めており、状況を見ながら話し合う機会を設けている。	入居時に重度化した場合や終末期について話し合い、同意を得ている。看取りはしていないが、重度化した場合は家族や医療関係者と連携し、方針を共有しながら最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が対応できるマニュアルを作成し、すぐ見れるところにある。又、急変・事故発生時速やかに対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定訓練を通し地域の協体制も深め、備品も管理し水害・地震等のマニュアルを作成し職員が確認出来る様に提示してある。	消防署の指導を受け地域住民の見守りがある中、年2回の避難訓練を実施している。川の氾濫などを想定した水害対策では避難対策を強化し、1階にある備蓄(食品等)を2階に移動する等の対策を行っている。訓練終了後は、消防署より講評を得て、運営推進会議で報告している。	昨年9月北海道胆振東部地震で起きた長時間停電の経験を踏まえ、冬期間の災害を想定した備蓄品(食品等)や防寒関連の備品の充実を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重しプライバシーを損ねないよう丁寧な対応に心掛けている。	利用者の尊厳を大切に、一人ひとりの個性や状況に応じた接し方を職員に周知しながら適切な言葉かけに努めている。トイレ誘導や入浴時など、誇りやプライバシーを損ねないように優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人格を尊重し、わかりやすい言葉を用いて、いくつかの選択肢を用意し自ら決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調や表情を確認しながら出来るだけ本人のペースで過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を吟味し、一人ひとり身だしなみやおしゃれが出来るように声掛けをしながら支援している。		

オークヴィレッジ かるがも（郷ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやお米研ぎなど、できる人には手伝って頂いている。	献立と食材は業者に依頼し、食事の準備から片付けまでは職員と利用者が一緒に行い食事を楽しんでいる。行事食は、寿司パーティーを行ったり、誕生日にはケーキや祝い膳が用意され、会話をしながら楽しい食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつも含め入居者の方一人ひとりが一日全体の食事量や水分の摂取量を記録し常に意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後歯磨きの声掛けを行い力に応じて見守りや介助を行っている。定期的に歯科往診を受け口腔ケアをしている入居者もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の記録にて排泄チェックを行い、パターンを把握し声掛けや介助を行い自立に向けた支援を行っている。	チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、一人ひとりの表情や仕草を見ながら誘導し、できるだけトイレで自然な自立排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し乳製品や多めの水分提供や身体を動かす機会を増やすなど工夫し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の能力に合わせて洗身・洗髪を行って頂いたり、入居者の状況に合わせて2人介助の事もある。	浴室はユニット型で、週3回～4回個々の体調に合わせて気持ちよく楽しく入浴できるよう支援している。また、入浴を希望しない利用者には、タイミングをずらしたり、翌日にするなど、不愉快な思いをさせないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し日中傾眠がちな方には夜間気持ちよく眠れる様個別に楽しめる活動を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についてはファイルに綴じられていて、スタッフがいつでも確認できる状態にある。薬の変更や追加は記録や申し送りで確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事・得意な事を把握しそれを活かせるような場を作り提供できるようにしている。		

オークヴィレッジ かるがも（郷ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には畑の野菜やお花を見たり、隣の公園や近所を散歩するなど気分転換をしている。	日常的に隣接の公園を散歩したり、花見や紅葉の見学、利用者の馴染みの場所に行くなど外出支援に努めている。秋祭りと敬老会は地域の方々も参加するなど、交流を深めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を管理できる方がいない為、施設でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれ希望があった場合は、要望に沿った対応に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーを壁に貼り付け今日の日にちを理解して頂いたり、壁飾りなど季節が感じられるようなものを工夫し季節感を常に味わって頂けるような雰囲気作りをしている。	共用空間は採光や風通しが良く、室温管理がなされ過ぎやすく、隣には公園があり、春には桜が咲き利用者を和ませている。リビングには小上がりがあり、壁には季節感ある飾りつけが施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とお話が出来たり、一人に成れる椅子があったり、その時々で気分が自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方に協力をして頂き、本人の好きな物（ぬいぐるみ、本、テレビ等）を置き、家族写真なども飾られたり居心地の良い空間となっている。	部屋の入口には、本人の写真が飾られ、居室が間違われないように工夫されている。使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、写真、手作りの作品を飾って、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、様々な場所に手摺りを設置しており、スタッフが常に見守りをしている中で安全に生活できるよう工夫している。		